

“真のグローバルICT企業”として 富士通グループがいま、 果たすべき使命と責任。



取締役執行役員 副社長 藤田 正美

「CSR基本方針」と「5つの重要課題」を策定

2010年12月、富士通グループは、「CSR基本方針」を制定し、その実践にあたって優先的に取り組むべき「5つの重要課題」を設定しました。

富士通グループは、これまでも、FUJITSU Wayの実践を通してさまざまな社会課題に対応し、持続可能な社会の発展に貢献してきました。また、2009年12月には国連が提唱する「グローバル・コンパクト」(P15参照)への支持を社内外に表明し、グローバルなCSR活動を強化してきました。

こうしたなか、2010年9月に社団法人日本経済団体連合会の企業行動憲章が改訂され、同年11月には社会的責任に関する国際規格であるISO26000が発行されるなど、社会のCSRに対する要請は国内外を問わずますます高まっています。

富士通グループは、今回制定した「CSR基本方針」に基づいて「5つの重要課題」に取り組んでいくことで、ステークホルダーの皆様のさまざまな要請や期待に一層力強く応えていくとともに、地球と社会の持続的な発展に大きな貢献を果たす真のグローバルICT企業をめざしていきます。

さらに、重要課題への取り組みについては、今後、順次、主要評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクルの運用を通じて着実に取り組みを前進させていきます。また、その進捗状況を社内外に開示、共有しながら経営と一体となったCSR活動を展開していきます。

外部有識者との議論を重ねて

重要課題の選定にあたっては、社内の関連部門の責任者で構成されるCSR推進タスクフォース※のもとに設置された基本戦略WGで、GRIガイドラインなど国際的に認められたCSRの規範やグローバルな社会課題を考慮しつつ、富士通が優先的に取り組むべき事項について議論を重ねました(2010年4月～9月までに9回開催)。

また、外部の有識者を招いたステークホルダーダイアログも2回開催し、富士通への期待と要請について理解を深めました。

※ CSR推進タスクフォース:海外ビジネスマネジメント本部、経営戦略室、コーポレートブランド室、CS経営推進室、FUJITSU Way推進本部、総務人事本部、ダイバーシティ推進室、JAIMS支援部、法務本部、購買本部、環境本部、マーケティング本部(以上富士通)、富士通研究所、富士通セミコンダクター、富士通デザイン、富士通ユニバーシティ、ほか。

ダイアログに参加いただいた有識者の皆様のコメント(抜粋)

河口 真理子氏

(大和証券グループ本社 CSR室長:当時)

市場のグローバル化が進展するなか、ダイバーシティ(多様性)を受容しない会社は生き延びていくことができない。今までの成功体験が効かなくなっているなか、異なる考え方や尺度をもった人材を意識的に活用する必要がある。

古川 拓氏

(アライアンス・フォーラム財団 理事/マネージングディレクター:当時)

日本企業に期待するのは、人材育成。マーケットが変化し、これまでと異なったアプローチ、コミュニケーション力が求められているなかでは、それに対応できる人材が必要。

古谷 由紀子氏

(日本消費者生活アドバイザー・コンサルタント協会 常任理事)

ステークホルダー・コミュニケーションは、待ちの姿勢で行うものではなく、会社側から積極的にコミュニケーションを取るべき。その際、社会課題の解決という視点でコミュニケーションを行ってほしい。



CSR基本方針

富士通グループのCSRは、FUJITSU Wayの実践です。全ての事業活動において、マルチステークホルダーの期待と要請を踏まえFUJITSU Wayを実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献します。

CSRの実践にあたっては、下記5つの課題に重点的に取り組みます。これら課題への対応を通じて、グローバルICT企業として責任ある経営を推進します。

5つの重要課題

富士通グループが取り組むべき5つの重要課題は大きく3つの項目に分類されます。

1. 企業活動を通じた社会的課題の解決

富士通グループは、企業活動を通じて社会のさまざまな課題を解決し、地球と社会の持続可能な発展に貢献します。

重要課題1. ICTによる機会と安心の提供

世界の70億人をICTがつなぎ支える社会の実現に貢献し、人々に夢のある機会と安心を提供する。

具体的な取り組み例

- わかりやすく使いやすい(ユニバーサルデザインに配慮した)製品・ソリューションの提供
- スーパーコンピュータや先端ICT技術の提供による社会課題解決への貢献

重要課題2. 地球環境保全への対応

ICTによりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの環境負荷を低減する。

具体的な取り組み例

- グリーンICTの開発・提供によるお客様や社会の環境負荷低減
- 自らの事業活動における環境負荷低減
- 生物多様性保全活動の推進

2. CSR活動の基盤強化

地球と社会の持続可能な発展に貢献するため、社員がグローバルな視野をもち、生き生きと活躍できるCSRの基盤を強化します。

重要課題3. 多様性の受容

企業と個人が共に成長できるよう、国籍、性別、年齢、障がいの有無、価値観に関わらず、多様な人材を受け入れ活かす。

具体的な取り組み例

- ダイバーシティ推進によるイノベーションを創出しやすい組織風土づくり
- ワークライフバランスの推進

重要課題4. 地球と社会に貢献する人材の育成

グローバルな視点にたち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。

具体的な取り組み例

- グローバルな視野を持った人材を育成
- ビジネスを通じて地球と社会の発展に貢献するマインドの醸成

3. ステークホルダーとの対話と協力

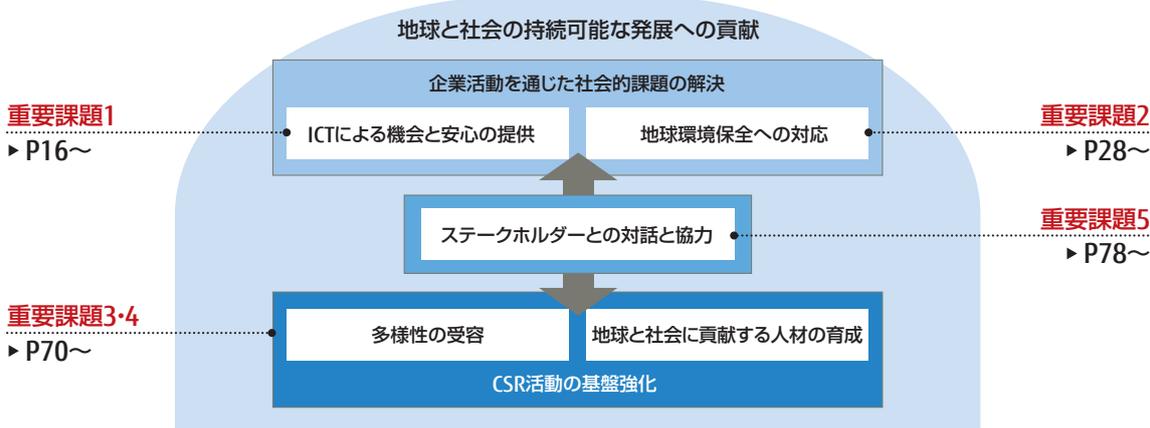
3つ目として、上記2つの項目を多面的視点から推進するため、従来のビジネスの枠組みを越えた、幅広いステークホルダーとの関係構築に取り組みます。

重要課題5. ステークホルダーとの対話と協力

良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。

具体的な取り組み例

- NGO、国際機関など多様なステークホルダーとの関係構築
- ICTの裾野の拡大、挑戦の支援、地域との共生、環境の4つを柱とした社会貢献活動への取り組み



「FUJITSU Way」とは

FUJITSU Wayは、富士通グループが今後一層の経営革新とグローバルな事業展開を推進していくうえで不可欠なグループ全体の求心力の基となる企業理念、価値観および社員一人ひとりがどのように行動すべきかの原理原則を示したものです。

すべての富士通グループ社員は、このFUJITSU Wayを等しく共有し、日々の活動において実践することで、グループとしてのベクトルを合わせ、さらなる企業価値の向上と国際社会・地域社会への貢献をめざしていきます。

FUJITSU Way浸透活動

グループ全体で浸透活動を展開

富士通グループでは、グループ全体の求心力をさらに高め、一層のガバナンスを強固にするべく、FUJITSU Wayを国内外のすべてのグループ会社に適用しています。各部門、各社では「FUJITSU Way推進責任者」を選出し、経営トップとともにFUJITSU Wayを語り、さらに組織特性に応じた各種浸透活動を展開しています。

FUJITSU Way推進責任者との連携

2010年6月には、各組織への一層の展開を図るために、国内グループ会社の約250名のFUJITSU Way推進責任者を対象とした「2010年度方針説明会」を開催しました。

説明会では新年度の活動方針、各組織内の浸透活動の事例紹介のほか、行動規範の徹底や活動における課題(解決に向けた取り組み)などについて情報共有、討議を行いました。現場では、説明内容を踏まえた浸透活動を展開し、2009年度に引き続きその効果を適宜確認して活動の改善を図っています。



2010年度方針説明会

FUJITSU Wayツールの拡充

富士通グループでは、国内外の社員にFUJITSU Wayの解説書および携帯用のスモールカードを4カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語)で配布し、職場ではポスター(12カ国語)を掲示しています。また、イントラサイトでは経営トップ(2010年4月に就任した山本社長)がFUJITSU Wayに込める

FUJITSU Way

企業理念
富士通グループは、常に変革に挑戦し続け
快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し
豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供します

目指します

社会・環境	社会に貢献し地球環境を守ります
利益と成長	お客様、社員、株主の期待に応えます
株主・投資家	企業価値を持続的に向上させます
グローバル	常にグローバルな視点で考え判断します

大切にします

社員	多様性を尊重し成長を支援します
お客様	かけがえのないパートナーになります
お取引先	共存共栄の関係を築きます
技術	新たな価値を創造し続けます
品質	お客様と社会の信頼を支えます

行動指針

良き社会人	常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します
お客様起点	お客様起点で考え、誠意をもって行動します
三現主義	現場・現物・現実を直視して行動します
チャレンジ	高い目標を掲げ、達成に向けて粘り強く行動します
スピード	目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します
チームワーク	組織を超えて目的を共有し、一人ひとりが責任をもって行動します

行動規範

- 人権を尊重します
- 法令を遵守します
- 公正な商取引を行います
- 知的財産を守り尊重します
- 機密を保持します
- 業務上の立場を私的に利用しません

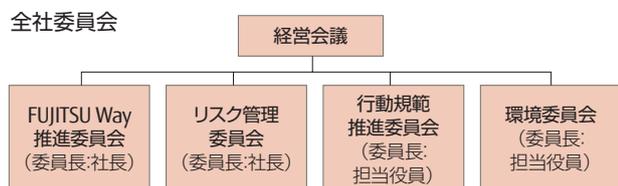
- 事業方針**
- フィールド・イノベーションにより、自らの革新とお客様への価値提供を追求します
 - すべての事業領域において、地球環境保護ソリューションを提供します
 - グループ各社が相互に連携し、グローバルな事業展開を加速します

想いを語る動画を配信し、FUJITSU Wayに対する理解を再確認できるようにeラーニングをリニューアルして提供しています。

さらに、海外グループ会社を対象に新たなeラーニングコンテンツを作成し、2011年4月より開講するとともに、現状4言語の解説書を16言語にする多言語化対応を進めています。これらのツールは、研修やほかのプロジェクト活動のなかでも活用されるよう努めています。

CSR推進体制

富士通のCSR活動の基軸となるFUJITSU Wayの浸透、定着を一層推進していくために、経営会議直属の委員会として、「FUJITSU Way推進委員会」「リスク管理委員会」「行動規範推進委員会」「環境委員会」の4つの委員会を設置しています。



CSR推進活動

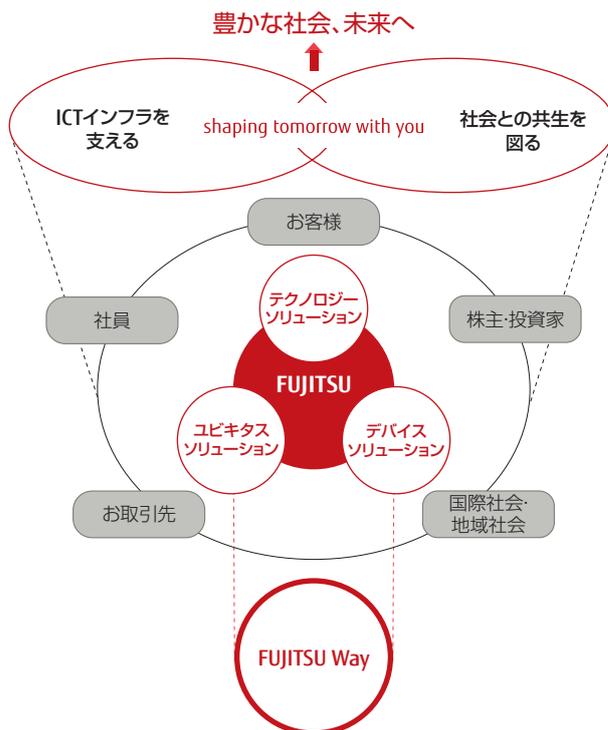
富士通では、CSRの主要課題の着実な実践に向けて、各担当部門の主導で具体的な取り組みを展開しています。2010年度は、CSR推進タスクフォース(P11参照)のもとに、新たに、基本戦略、コミュニケーション、社会貢献などについてWGを設置し、各担当部門からメンバーが集まり、CSRに関するKPIの策定、情報発信、新たな社会貢献事例や、社会課

題を解決するビジネスのありかたなどについて検討を進めました。

富士通グループのステークホルダー

富士通グループは、「お客様」「社員」「お取引先」「株主・投資家」「国際社会・地域社会」をステークホルダーとしています。また、特に「政府」「NPO」「NGO」なども「国際社会・地域社会」のなかの重要なステークホルダーと考えています。

各ステークホルダーとの対話を実施し、さまざまな期待と要請を理解して、企業活動を実施するよう努めています。



TOPICS CSRに関する勉強会を実施

CSRに関する共通した理解を醸成することを目的として、外部の有識者を講師に迎え、CSR担当者を中心とした勉強会を実施しています。2010年は2回の開催で、計120名の社員が出席しました。

- 第1回:「ミレニアム開発目標」について
- 第2回:「ISO26000」「日本経団連の企業行動憲章」について



勉強会講師からのコメント

近年、途上国市場への関心が高まるなか、低所得者が直面する社会課題を解決しながら利益も確保する革新的なビジネスモデルが注目されています。

ICT分野でも携帯電話を活用した生活改善や、安価なインターネット技術による情報へのアクセス改善などが期待されており、企業の積極的な参入を促したいと思います。



国連開発計画(UNDP) 東京事務所 広報・市民社会担当官 西郡 俊哉氏

KPI策定に向けて

富士通グループでは、今回制定されたCSRの取り組みべき5つの重要課題に沿って、具体的なCSRの取り組みに着手し、本年度の報告書では重要課題ごとに主要な実績と取り組み事例を紹介しています。これまでも、富士通グループの各部門は「めざす理想的な姿」を設定する際に「社会・環境との調和」を前提とし、経営品質の向上に努めてきました。今後のCSR活動のさらなる活性化に向けて、実践を積み重ねるとともに、具体的な活動目標と成果を示すKPI (Key Performance Indicator)を設定し、PDCAサイクルを活用したCSRのマネジメントを強化していきます。

国連グローバル・コンパクトへの取り組み

富士通は、2009年12月に、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」への支持を表明しました。

富士通グループは、グローバル・コンパクトの掲げる10原則に則ったグローバルなCSR活動に取り組んでいます。



本報告書記載の2010年度のCSR活動と、グローバル・コンパクトとの関連は以下の通りです。

- 人権原則1~2
 - ▶ P73~74 多様性の受容
 - ▶ P76~77 人権と労働慣行への取り組み
 - ▶ P83~84 CSR調達の方針・体制、CSR調達の推進
 - ▶ P93~94 コンプライアンス
- 労働原則3~6
 - ▶ P76~77 人権と労働慣行への取り組み
 - ▶ P83~84 CSR調達の方針・体制、CSR調達の推進
 - ▶ P93~94 コンプライアンス
- 環境原則7~9
 - ▶ P28~69 地球環境のために
- 腐敗防止原則10
 - ▶ P83~84 CSR調達の方針・体制、CSR調達の推進
 - ▶ P93~94 コンプライアンス

SRI関連の評価

富士通は、以下のSRIに関する株価指標およびSRIファン

ドに組み入れられています。

2010年9月には、Dow Jones Sustainability World Indexの構成銘柄に12年連続で選定されたほか、FTSE4Good Indexにも継続的に組み入れられています。また、2011年2月には、スイスのSAM(サステナビリティ・アセット・マネジメント)社が選んだ日本を代表するサステナビリティ企業のシルバークラス企業として選定されました。

SRIに関する株価指標への組み入れ状況

ファンド名称	運用会社
Dow Jones Sustainability Indexes (World, Asia Pacific) 	ダウ・ジョーンズ社(米国)・SAM Group(スイス)
FTSE4Good Index Series 	FTSEインターナショナル社(英国)
oekom research 	oekom research社(ドイツ)
モーニングスター 社会的責任投資株価指数 	モーニングスター(株)

主なSRIファンドへの組み入れ状況(日本)

ファンド名称	運用会社
住信SRI-ジャパン・オープン(グッドカンパニー)	住信アセットマネジメント(2011年3月現在)
損保ジャパン・グリーン・オープン(ぶなの森)	損保ジャパン・アセットマネジメント(2011年4月現在)
ダイワブラックロック グリーン・ニューエネルギー・ファンド	大和投信(2011年5月現在)
日興エコファンド	日興アセットマネジメント(2011年5月現在)
6資産バランスファンド(分配型/成長型)(ダブルウィング)	大和証券投資信託委託(2011年6月現在)

国連グローバル・コンパクトとは

国連グローバル・コンパクトは「人権・労働基準・環境・腐敗防止」の4分野において企業が遵守すべき10原則を示したものです。

人権

企業は、
原則1:国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
原則2:自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

労働基準

企業は、
原則3:組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、
原則4:あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
原則5:児童労働の実効的な廃止を支持し、
原則6:雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

環境

企業は、
原則7:環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
原則8:環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
原則9:環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

腐敗防止

企業は、
原則10:強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

(グローバル・コンパクト2009年版より)